溶接学会 若手会員の会
WELNET

若手会員の会 活動報告

HP アドレス http://jweld.jp/welnet/index.html
E-mail アドレス welnet@iijnet.or.jp

溶接学会若手会員の会 第 64 回運営委員会開催報告

副委員長 鴇田 駿（東北大学）・鳥形 啓輔（株式会社ＩＨＩ）

Report of the 64th meeting of WELNET steering committee

by TOKITA Shun and TORIGATA Keisuke

先日 4 月 27 日に、溶接学会若手会委員の会運営委員会を開催しました。例年全国大会の期間中に対面にて実施しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、テレビ会議ツールを用いたオンライン会議となりました。2020 年度の活動内容や会計報告、2021 年度の活動計画などについて報告および審議を実施いたしましたので、以下に主な内容をお知らせいたします。

日時：2021 年 4 月 27 日 13:00-14:05
場所：Cisco Webex Meeting を用いたオンライン開催
出席者（敬称略）：
庄司（大阪大学）、鴇田（東北大学）、鳥形（IHI）、松田（大阪大学）、久保（岩手県工業技術センター）、本間（日本製鋼所 M&E）、山本（大阪大学）、古免（熊本大学）、劉（大阪大学）、荻野（大阪大学）、浅間（三菱電機）、伊與田（大阪工業大学）、尾崎（三重大学）、清水（大阪大学）、坂野（三菱重工業）、平出（JFE スチール）、藤原（ダイヘン）、三浦（大阪大学）、三輪（神戸製鋼所）、吉川（川崎重工業）
出席 20 名、委任 14 名（運営委員総数 37 名）

資料：
welnet 64-0 議案
welnet 64-1 第63回溶接学会若手会員の会運営委員会議事録
welnet 64-2 2020 年度活動報告・2021 年度活動計画
welnet 64-3 会計報告
welnet 64-4 全国大会関係
welnet 64-5 編集関係
welnet 64-6 広報・ML 関係
welnet 64-7 研究会・施設見学会関係
welnet 64-8 勉強会関係
welnet 64-9 出前講義関係
welnet 64-10 グローバルネットワーク活動関係

【審議・報告事項】
議事に先立ち、2021 年度からの新委員下記 2 名の紹介が行われた。
藤原 雅之 氏（㈱ダイヘン）
三輪 剛士 氏（㈱神戸製鋼所）

1. 第 63 回溶接学会若手会員の会 運営委員会議事録の確認・承認（庄司委員長）
庄司委員長より、welnet 64-1 に基づき第 63 回溶接学会若手会員の会 運営委員会議事録案について報告され、承認された。（運営委員数：37 に対し、承認：20 名、委任：14 名、無回答：3）。

2. 2020 年度活動報告および 2021 年度活動計画（庄司委員長）
庄司委員長より、welnet64-2 に基づき 2020 年度活動報告および 2021 年度活動報告の報告がなされた。
2020 年度は第 62 回運営委員会をメール審議によって行い、第 63 回運営委員会を Cisco Webex Meeting を用いたオンライン会議によって行った。2020 年度春季全国大会に計画していたイブニングフォーラムは新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止となった。
秋季全国大会において、全国大会システムを利用したポスターセッションを開催した。オンラインの勉強会を 2 回開催し、コロナ対策および若手のアウトリーチ活動について議論を行った。
2021 年度は、4 月および 9 月に運営委員会を開催する。全国大会イベントとして、2021 年度春季全国大会において Remo Conference を用いた技術マッチングポスターセッションを開催した。秋季全国大会の開催形態は未定だが、オンライン開催となる見込みであることから、オンラインでのポスターセッション開催について検討を進めている。研究

会については、2021 年 6 月 23 日に第 1 回研究会をオンラインで開催することを予定している、2 回目以降については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見ながら開催方法を検討する予定である。勉強会は昨年度に引き続きオンラインでの実施を考えており、2021 年 5 月 10 日に第 1 回を計画している。また、若手によるアウトリーチ活動を推進するため、今年度よりアウトリーチ活動の担当幹事を設置し、住友重機械工業の笠野委員（編集委員と兼任）に担当いただくことになった。

上記の 2020 年度活動報告、2021 年度活動計画について確認されたほか、新たなメンバーを含めた名簿が確認された。

3. 会計報告（山下委員）

山下委員（当日は鴇田副委員長が代読）より、welnet 64-3 に基づき 2020 年度会計報告ならびに 2021 年度予算案について報告された。若手会員の会ならびにグローバルネットワーキング（GN）予算の 2020 年度収支報告書の内容が確認・承認された。2020 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で対面による研究会や会議を行わなかったため、費用の発生する活動をほとんど行っていない。GN 予算についても、国際交流活動を行えなかったため、全額が 2021 年度予算に繰り越された。

2021 年度予算については、下半期から対面での活動を展開できることを想定して予算を計上したほか、オンライン会議ツールやアウトリーチ活動、Welnet ホームページの更新費用についての予算を計上したことが報告され、承認された。

4. 全国大会イベント（松田委員）

松田委員より、welnet 64-4 に基づき全国大会イベント関係の報告があった。2021 年度春季全国大会において、Remo Conference を用いたオンライン形式にて技術マッチングポスターセッションを開催した。Remo Conference については、ホワイトボード機能などを用いた自由な議論ができるため参加者からも好評で、次回以降の利用についても検討されることが報告された。2021 年度秋季全国大会については、5 月中に開催される全国大会運営委員会におけるポスター発表数や日程についての確認を受けて、オンライン開催を想定した準備を進めることが確認された。また、2022 年度の春季全国大会におけるイブニングフォーラムの内容について、今後検討を進めることが確認された。

5. 溶接学会誌若手ページの編集関連（山本委員）

山本委員より、welnet 64-5 に基づき溶接学会における若手担当ページの状況について報告された。スポットライト記事（溶接タマゴ・私の溶接履歴）、じょうほう通についての執筆状況と今後の計画が紹介され、今後の執筆者候補の紹介についての依頼がなされた。スポットライト記事の執筆者については、「溶接タマゴ」は博士課程の学生、修士課程の学生、溶接業界内定者、「私の溶接履歴」は業界に身を置いて数年を目安に活躍されている方を執筆者として想定していることが確認された。一方でじょうほう通では、溶接に関する海外イベントなどに参加された方を執筆者候補としている。新型コロナウイルスの感染拡大の影響から海外イベントへの参加自体が減り候補者の選定が困難になっていることから、国際会議参加者についての情報提供への呼びかけがあった。

6. 広報・ML 関係（劉委員）

劉委員より、welnet 64-6 に基づき広報・ML 関係の報告が行われた。はじめに 2020 年度の ML 配信状況について報告された。また、現行のメーリングリストのサービスが 2021 年 6 月 30 日に終了するため、その代替について議論が行われた。代替として提案された有限会社ビクトリーセブンの「MLIST」は、現行サービスと同等の機能で予算が減額できることから、移行作業を進めることが承認された。

また、Welnet メーリングリストの配信者数（35 歳以下の溶接学会員で学会からのメーリングリストの受信をオンにしている方）が減少していることについて指摘があり、広報活動や若手向け研究活動の活性化の必要性が確認された。

7. 研究会・施設見学会（古免委員）

古免委員より、welnet 64-7 に基づき研究会・施設見学会関係の報告が行われた。2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響から研究会・施設見学会は中止となったことが報告された。2021 年度の活動予定として、第 1 回の研究会を 2021 年 6 月 23 日にオンライン開催することが報告された。第 2 回以降は例年通り講演者を募集する計画であり、特に企業からの講演を歓迎することが呼びかけられた。

8. 勉強会（鴇田委員）

鴇田委員より、welnet 64-8 に基づき若手会員の会勉強会についての報告がなされた。2020 年度は対面での勉強会開催が困難であったことから、Web 勉強会の開催に向けて使用するツールや勉強会の内容などについて議論を重ねてきた。これに基づき、2020 年 7 月 17 に「私の周りのコロナ対策」、11 月 16 日には「若手によるアウトリーチ活動について」というテーマで Web 勉強会を開催した。また、2021 年度の計画として、第 1 回勉強会を 5 月 10 日に「これまでの研究」「やりたい/やってみたい研究」をテーマとして開催することがアナウンスされた。新型コロナウイルスの影響で懇親会が開催できないため、若手同士の気軽な技術交流の場として勉強会を活用していくことが確認された。また、溶接学会に入会していない若手研究者・技術者の勉強会への参加を歓迎することが確認された。

9. GN 活動（荻野委員）

荻野委員より、welnet 64-10 に基づきグローバルネットワーキング（GN）活動について報告された。YPIC/WRTYS2021 の案内があったことが報告された。オンライン形式の国際会議は新たなネットワークを形成するには不向きであるため、GN 活動も時代の流れに沿った新たな活動形式を考えていく必要がある。その一例として、若手会

員のプロフィールを英語で作成し、Welnet の Web サイトにて公開することが提案された。2022 年度は日本で IIW が開催される予定のため、PR 活動も行いやすいものと考えられる。
また、GN 活動費の活用方法についても議論が交わされた。ここ数年は YPIC 参加者の旅費として使用していたが、当面は海外渡航を伴う活動は行えないため、国際的なネットワーク形成に資する新たな活動が求められることが確認された。

庄司委員長のもとでの現体制がスタートして 1 年が経過しました。スタート時から新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面での活動が困難になっているなか、オンラインでのポスターセッションや研究会・勉強会といった活動が軌道に乗りつつあります。また、GN 活動やアウトリーチ活動においても、社会の流れに乗った新たな活動展開が求められています。若手会員のさらなる活性化のため精力的に活動してまいりますので、今後も若手会員の会にご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上